

社会資本整備審議会 道路分科会 第25回北海道地方小委員会

議事概要

1. 日 時 令和2年10月8日(木) 13時00分～15時00分
2. 場 所 TKP札幌駅カンファレンスセンター カンファレンスルーム2B
(札幌市北区北7条西2丁目9)
3. 出席者
[委員長]
田村 亨 北海商科大学 教授
[委員]
片石 温美 中央大学研究開発機構 教授(客員)
加藤 由紀子 北海商科大学 教授
久保 俊幸 北海道商工会議所連合会 副会頭
島本 和明 日本医療大学 総長
菅井 貴子 気象防災キャスター
高橋 清 北見工業大学 教授
平岡 祥孝 札幌大谷大学 教授
山崎 幹根 北海道大学大学院 教授

4. 議 事

○災害に強い国土幹線道路ネットワークについて

【委員からの主な意見】

- ・ 北海道の高規格道路の整備は、全国と比較しても相当遅れており、そもそもダブルネットワーク化が活かされる状況になっていない。特に、まずはミッシングリンクの解消が必要。
- ・ 人口やB/Cといった観点によらず、必要なネットワーク整備を進めるべき。新型コロナ禍においても日常生活が営んでいたのは、ネットワークによって物流が支えられていたことにほかならない。
- ・ 災害のほか、積雪寒冷環境下の北海道の特殊性に対応したネットワークの早期整備が必要。
- ・ ハード整備と合わせて、発災後の情報発信等のソフト施策の検討も重要。
- ・ 災害に強い国土幹線道路ネットワークを活かすためにも空港や港湾等の拠点までを繋ぐラストマイルへのアクセスも重要。
- ・ 北海道は国土の22%を占めており、広域分散型の地域構造を有していることを常に意識した議論をすべき。

- ・ 老朽化対策や地方部で現場対応にあたる建設業の人材不足、自治体への支援も防災・減災、国土強靱化の観点では重要。
- ・ 防災上の課題箇所についても必要な対策を実施することが重要。

【委員長による総括】

- ・ 事務局から説明のあった北海道における災害に強い国土幹線道路ネットワークについて了承。
- ・ 北海道は国土の22%を占める広大な地域であり、我が国の食料供給基地でもある一方で、積雪寒冷という特殊な状況下と、分散型の地域社会を有している。そのような状況の中、高規格道路については依然として調査中の区間等が多数残っている。
- ・ 近年の災害状況や物流の実態を踏まえると、事業中区間の整備促進に加えて、調査中あるいは「当面着工しない区間」についても早期の整備が必要。
- ・ 同時に、防災上の課題箇所についても引き続き緊急的な点検を進めて、防災事業・対策等を実施していくことや、暫定2車線区間の4車線化整備を進めていくことが重要。

以 上